

4/22-28#10私たちが良き地としてのキリストを所有するために、見て経験する必要のある支配する原則

Birds Eye View「それで、あなたがたはキリスト、主なるイエスを受け入れたのですから...彼の中で歩きなさい」(コロ2:6-7)

A私たちはキリストを受け入れたので、彼の中で歩くべきです。彼の中で歩くとは、キリストの中で生き、行動し、振る舞い、存在して、彼の豊富を享受することです。それは、イスラエルの子たちが良き地の中で生活して、そのすべての豊富な産物を享受したようにです。

B今日の良き地は、すべてを含む霊としてのキリストです。彼は私たちの霊の中に住んで、私たちの享受となっています。

C霊にしたがって、また霊によって歩くことは、新約における中心的で重要な点です。

ガラ5:16 しかし私は言います。霊によって歩きなさい。そうすればあなたがたは、決して肉の欲を満たすことはありません。

II 良き地の実際としてのキリストの中で歩くために、霊にしたがって、また霊によって歩くために、私たちが見なければならぬことは、再生された三部分から成る信者と究極的に完成された三一の神との霊的な交わりのかぎが、1コリント6:17—「主に結合される者は、主と一つ霊になります」であるということです。

A私たちは、私たちの霊をもって霊なる神を礼拝します。

B私たちはその霊である神から再生されて、霊となりました。

Cその霊は、私たちの霊と共に、私たちが神の子供たちであることを証ししてください。

D私たちは、私たちの霊の中にある神の住まいとなります。その霊はそこに住む方です。

E主イエスは、霊なるキリストとして、また命を与える霊として、私たちの霊の中にいます。

Fイエスを死人の中から復活させた方の霊が、私たちの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、私たちの中に住んでいる彼の霊を通して、私たちの死ぬべき体にも命を与えてくださいます。

G私たちがその霊によって体の行ないを死に渡すなら、私たちは生きます。

H私たちは思いを霊に付けて、命と平安を得ます。

Iキリスト・イエスのものである人たちは、(その霊によって)肉をその情と欲と共に十字架につけてしまったのです。

J私たちは霊によって歩くとき、決して肉の欲を満たすことはありません。

Kもし私たちが霊によって生きているならば、霊によって歩こうではありませんか。

L私たちは霊(ミングリングされた霊)の中で、また霊にしたがって歩いて(存在して)律法の義の要求を満たします。

M私たちはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、キリストを生き、キリストを大きく表現します。

N私たちはどんな時にも霊の中で祈ります。

O私たちはその霊の中で聖別されます。

P私たちは、私たちの霊の中のその霊によって更新されます。

Q私たちは主なる霊によって、キリストの栄光のかたちへと造り変えられます。

R究極的に完成された三一の

神としてのその霊と、造り変えられた三部分から成る人としての花嫁は、最終的に霊的夫婦、神性と人性のミングリングとなって、究極的に完成された新エルサレムとなり、彼の永遠の拡大と表現となって、神聖な栄光が栄光化された人性において現されるようになります。

啓22:17 その霊と花嫁が言う、「来たりませ!」。聞かざるも「来たりませ!」と言いなさい。渇いている者は来たれ。欲しい者は、命の水を値なしに飲むがよい。

III 私たちが見る必要のある事は、私たちがその中で歩く方が、キリストの三つの時期の満ち満ちた務めにおけるキリストであるということです

A神の中心的な啓示は、聖書における神についての漸進的な啓示です。すなわち、「独身の」神、肉体と成った神、贖う神、複合の神、強化された神、内住する神、合併された神です。合併された神は、からだ・キリストであり、「結婚した」神、究極的に合併された神、新エルサレムにおいて究極的に完成します。

B主の回復は、三つの時期(肉体と成ること、包括、強化)の満ち満ちた務めにおけるキリストの回復です。主の回復とは、神が肉体と成り、肉体が命を与える霊と成り、命を与える霊が七倍に強化された霊と成って、召会を建造し、召会がキリストのからだとなり、新エルサレムを究極的に完成するということです。

1「神が肉体と成り」とは、「独身の」神が肉体と成った神、贖う神となることです。

2「肉体が命を与える霊と成り、命を与える霊が七倍に強化された霊と成って」とは、複合の神が強化された神となって、内住する神となることです。

3「建造された召会がキリストのからだとなり、新エルサレムを究極的に完成する」とは、合併された神、からだ・キリストが、新エルサレムを究極的に完成することです。新エルサレムは、手順を経て究極的に完成された三一の神と、手順を経て究極的に完成された三部分から成る召会の究極の結合、ミングリング、合併です。

IV 主の現在の回復は、召会生活におけるからだ・キリスト(「あのキリスト」)の回復です。からだ・キリストは、合併された神です。こういうわけで、キリストの中で歩くことは、からだ・キリストとしての彼の中で、合併された神の中で歩くことです。

A1コリント12:12は言います、「それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、あのキリスト[直訳]も同様だからです」。この節の「あのキリスト」とは、個人のキリストではなく、団体のキリスト、彼のすべての肢体と合併されたキリストです。

Bこれは使徒パウロが征服されて悔い改めてキリストに立ち返った時に見た団体の「私」です。彼が見たのは、主イエスと彼の信者たちが一人の偉大な人、すばらしい「私」であるということです。

使徒9:3 そしてサウロが叫んで、ダマスコに近づいた時、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

4すると彼は地に倒れ、「サウロ、

サウロ、なぜ私を迫害するのか?」と言う声を聞いた。
5そこで彼は言った、「主よ、あなたはどなたですか?」。
すると主は言われた、「私はあなたが迫害しているイエスである。C 私たちが見る必要のある事は、私たちが今日その中で歩いているキリストが、個人のキリストであるだけでなく、すばらしい「私」、からだ・キリスト、合併された神であるということです。D キリストを受け入れ、キリストの中で歩くことは、からだ・キリストを受け入れ、その中で歩くことです。なぜなら、今日キリストは団体のからだであるからです。キリストはもはや個人のキリストであるだけでなく、団体のキリスト、からだを伴うかしらです。団体のキリストの中で歩くことは、私たちのクリスチャン生活に大きな違いをもたらします。E 主の回復は「キリスト化」の回復、純粋で完全なキリストのパーソンの回復であり、召会生活の中で、からだ・キリストの実際を得ることです。F 今日、主は召会生活の中で、からだ・キリストを建造しています。からだ・キリストの中で、キリストは彼のすべての肢体の中へと造り込まれ、彼のすべての肢体は、命における成長と命における造り換えによって、彼の中へと造り込まれ、キリストを表現します。V 良き地の実際としてのすべてを含むキリストを所有し、彼の中で歩くために、私たちが見る必要のある事は、私たちが主の中で生活することにおいても、主の中で働くことにおいても、主の臨在が私たちにとってすべてであるということです。出エジプト33:12~17において、モーセは神と交渉して、神の臨在がモーセと共にまた神の民と共に行くように要求しました。神は応答して言いました、「私の臨在があなたと共に行って、私はあなたに安息を与える」
出33:14-15 エホバは言われた、「私の臨在があなたと共に行って、私はあなたに安息を与える」。モーセはエホバに言った、「もしあなたの臨在が私たちと共に行かれないなら、私たちをここから上らせないください」。A 主は私たちの中に生きておられ、私たちがどこに行っても、彼も行かれます。しかし、彼の臨在は私たちと共にいるのでしょうか? 多くの時、主は私たちを助けるかもしれませんが、私たちに対して幸いでないかもしれません。私たちは、主の直接の、直の臨在によって支配される必要があります。B 主の臨在、笑顔は、私たちが良き地の実際としてのキリストの中へと入り、彼を所有するための支配する原則です。神の臨在は道であり、「地図」であり、彼の民が取るべき道を彼らに示します。C 出エジプト記の絵によれば、主の臨在は彼らの前に行き、「昼は雲の柱の中で彼らの道を導き、夜は火の柱の中で彼らに光を与えて、彼らが昼も夜も進んで行くことができるようにされた。昼は雲の柱、夜は火の柱が、民の前から離れ」ませんでした。出13:21 エホバは彼らの前を行き、昼は雲の柱の中で彼らの道を導き、夜は火の柱の中で

彼らに光を与えて、彼らが昼も夜も進んで行くことができるようにされた。1 予表において、雲はその霊を表徴し、照らすための火は神の御言を表徴します。それゆえ、神の臨在からの即時的な生ける導きは、霊を通して、あるいは御言を通して来ます。2 二本の柱は神ご自身を象徴します。なぜなら、神は霊であり、また御言であるからです。さらに、御言は霊でもありません。3 こういうわけで、神、御言、霊は一であって、昼であれ夜であれ、絶えず私たちを導き案内します。クリスチャン生活に、昼と夜の違いはありません。なぜなら火の柱から発する光は、夜を昼にならせるからです。D 出エジプト記がまた私たちに示している事は、キリストが神の御使いとして、民を導いていた方であったということです。神の御使いが行動したとき、柱も動きました。これが示していることは、御使いと柱が一であったということです。キリストと導く霊とは、分離することができません。さらに、主に従う者たちが反対に遭遇する時はいつも、導く光が自然に保護する光となります。しかしながら、この保護する光は反対者にとっては暗やみとなります。V 良き地の実際としてのすべてを含むキリストを所有し、彼の中で歩くために、私たちは、私たちの生活と奉仕の中で多くの徹底的な祈りをすることによって、祭司の体系の実際の中で生活し、奉仕する必要があります。コロ4:2 うまずたゆまず祈り、感謝しつつ祈りの中で目を覚ましていなさい。A 召会が生き生きとしていて新鮮で豊富であるかどうかは、一つの事にかかっています。それは、私たちが絶えずその霊で満たされていることです。絶えずその霊で満たされるために、私たちは自発的で、空にされていて、祈っている人となる必要があります。B 召会を建造するという高貴な働きに対する知恵、理解、知識、技巧は、私たちにとってその霊としての神ご自身でなければなりません。神の霊だけが、私たちを通してご自身の住まいを建造することができます。出31:3 エホバはベザレルを神の霊で満たして、知恵と理解力と知識を持たせ、あらゆる巧みな作業をさせ。C すべての召会のすべての聖徒がうまずたゆまず祈るなら、回復は大いに豊かにされ、引き上げられます。さらに、聖徒たちは主と、彼の臨在と、彼の即時的で、恒常的な油塗りとを享受するようになります。彼らは一日中、主の笑顔を享受し、キリストの生けるパーソンは彼らの経験また享受となります。CP1 日常生活で霊に従って歩き、組み合わせの中で奉仕をして、キリストのからだの建造に至る。「それで、あなたがたはキリスト、主なるイエスを受け入れたのですから...彼の中で歩きなさい」(コロ2:6-7) A 私たちはキリストを受け入れたので、彼の中で歩くべきです。彼の中で歩くとは、キリストの中で生き、

行動し、振る舞い、存在して、彼の豊富を享受することです。それは、イスラエルの子たちが良き地の中で生活して、そのすべての豊富な産物を享受したようにです。B今日の良き地は、すべてを含む霊としてのキリストです。彼は私たちの霊の中に住んで、私たちの享受となっています。C霊にしたがって、また霊によって歩くことは、新約における中心的で重要な点です。ガラ5:16 しかし私は言います。霊によって歩きなさい。そうすればあなたがたは、決して肉の欲を満たすことはありません。

ガラテヤ5章の文脈によれば、16節の霊は、聖霊であるに違いありません。この聖霊は、私たちの再生された霊の中に住んで、それとミングリングされています。霊によって歩くとは、私たちの歩みが、私たちの霊の内側から、聖霊によって規制されることです。これは、...肉の領域で、律法によって規制されることと対比しています。...「歩く」のギリシャ語は、私たちの生活における一般的な歩みを意味します。...命の霊の法則(私たちの中にすでに設置されています)が働くために、私たちが満たさなければならない条件は、①霊にしたがって歩く、②その霊の事柄を思う—思いを霊に付ける、③その霊によって体の行ないを死に渡す、④神の子たちとして、その霊によって導かれる、⑤子たる身分の霊の中で御父に叫ぶ、⑥私たちが神の子供たちであることを証しする、⑦完全な子たる身分、私たちの体の贖いを求めてうめくことです。

V良き地の実際としてのすべてを含むキリストを所有し、彼の中で歩くために、私たちが見る必要のある事は、私たちが主の中で生活することにおいても、主の中で働くことにおいても、主の臨在が私たちにあってすべてであるということです。VI良き地の実際としてのすべてを含むキリストを所有し、彼の中で歩くために、私たちは、私たちの生活と奉仕の中で多くの徹底的な祈りをするによって、祭司の体系の実際の中で生活し、奉仕する必要があります。

適用:ビジネスパーソン、大学院生編

証私は、①霊に従って歩くこと、②神の臨在に留まること、③祭司の体系の中で奉仕をすることが相互に関係し、強め合っていること、特に目標である召会建造のためのからだの組み合わせの中の奉仕③が、①「霊に従って歩くこと」と②「神の臨在に留まること」を強化し、結果として更に③建造のための奉仕を強化することを証します。私は、1コリント、エペソ、ピリピ、コロサイのライフスタディを読んで、私たち信者のキリストの経験は、召会建造のためであることを学びました。特に、ビジネスパーソンとして働くようになって、模範になる必要性を感じました。なぜなら、模範が少ないことで、働いている兄弟姉妹

たちは、実際にはどのように、職場でキリストを経験し、召会生活を過ごしたらいいのか分からないという問題があったからです。特に、日本ではクリスチャン人口が極めて少ないので、台湾の諸召会の聖徒たちのような強い証の欠乏を痛感していました。

30歳の時から全時間奉仕を辞めて働き始めましたが、私は当時の日本の地方召会にとっては、全時間奉仕よりもビジネスパーソンで奉仕をする模範が必要であるという感覚を持っていました。そして、召会生活の腰である働いている兄弟姉妹を励ますために、模範となることを志しました。職場の生活で、弱くなってしまうことは度々ありましたが、模範になることを思い出し、主の御名を呼び求め、霊を活用し祈りました、「私は建造のために、ビジネスパーソンの模範とならなければなりません。私はどのようにすればいいのかよく分かりませんが、あなたはご存じです。私に勝利者のビジネスパーソンになるために必要なものをすべて供給してください」。私はこのような祈りを何度もしました。ある時は、弱り果てる中でも、私は信仰を振り絞ってこのような祈りをしました。祈っても最初はあまり霊の感覚が強くない時もありましたが、何度も祈っている時、霊の中で、「模範になる」必要性と負担が増し加わって行きました。主は祈りを聞いてくださり、その後、少しずつですが、物事を取り扱うことで、また上司や同僚と接することで、霊に従って行動することを学び始めました。その後更に前進して、職場環境が良き地となり、様々な人・事・物を霊に従って対処することを学びました。私はこれらの経験したキリストをもって、召会の聖徒たち、特に働いている聖徒たちを励ました。また同時に、会社ではキリストを経験して業績を著しく向上させることができたので、給料が上がりました。そして、栄光を主に帰し、捧げることをさらに励みました。

私は主から離れたら、ただの肉の人であるので、主から離れることに警戒するようになり、主が給料を上げてくださる度に、直ぐに主に感謝するように訓練しました。そうしなければ、主の祝福を脇にやり、高ぶって自分が良かったかのようなささやきが内側にあったからです。私は祈りました、「主イエスよ、私は直ぐに霊から離れ、魂の中でサタンにそそのかされ、高ぶってしまい、悪魔サタンの食べ物になってしまいそうになります。絶えず、あなたに感謝することを訓練します」。1ペテ5:5 またあなたがたはみな、互いに謙そんの帯を締めなさい。なぜなら、神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。8 慎んで、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔は、ほえたける獅子のように、だれ

かを食い尽くそうと捜し求めています。霊に従って歩くために、肉を対処することが重要であることが分かりました。

CP2 合併された神であるからだ・キリストを受け入れ、その中で歩き、キリストの豊富を経験し享受する

IV 主の現在の回復は、召会生活におけるからだ・キリスト(「あのキリスト」)の回復です。からだ・キリストは、合併された神です。こういうわけで、キリストの中で歩くことは、からだ・キリストとしての彼の中で、すなわち合併された神の中で歩くことです。

A1 コリント12:12は言います、「それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、あのキリスト[直訳]も同様だからです」。この節の「あのキリスト」とは、個人のキリストではなく、団体のキリスト、すなわち彼のすべての肢体と合併されたキリストです。**B** これは使徒パウロが征服されて悔い改めてキリストに立ち返った時に見た団体の「私」です。彼が見たのは、主イエスと彼の信者たちが一人の偉大な人、すなわち、すばらしい「私」であるということです。

使徒9:3 そしてサウロが出かけて、ダマスコに近づいた時、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

4 すると彼は地に倒れ、「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか?」と言う声を聞いた。**5** そこで彼は言った、「主よ、あなたはどなたですか?」。すると主は言われた、「私はあなたが迫害しているイエスである。」

C 私たちが見る必要のある事は、私たちが今日その中で歩いているキリストが、個人のキリストであるだけでなく、すばらしい「私」、からだ・キリスト、すなわち合併された神であるということです。

D キリストを受け入れ、キリストの中で歩くことは、からだ・キリストを受け入れ、その中で歩くことです。なぜなら、今日キリストは団体のからだであるからです。キリストはもはや個人のキリストであるだけでなく、団体のキリスト、すなわち、からだを伴うかしらです。団体のキリストの中で歩くことは、私たちのクリスチャン生活に大きな違いをもたらします。**E** 主の回復は「キリスト化」の回復、すなわち、純粋で完全なキリストのパーソンの回復であり、召会生活の中で、からだ・キリストの実際を得ることです。

F 今日、主は召会生活の中で、からだ・キリストを建造しています。からだ・キリストの中で、キリストは彼のすべての肢体の中へと造り込まれ、彼のすべての肢体は、命における成長と命における造り変えによって、彼の中へと造り込まれ、キリストを表現します。**1** からだ・キリストの中で、私たちはキリストをすべてとして享受します。**2** からだ・キリストの中で、すべての肢体は機能します。**3** からだ・キリストの中で、肢体たちは三一の神の一において共にブ

レンディングされます。

私たちはキリストと召会の両方を顧慮するとき、キリストのさらに多くの豊富を得ることができます。こういうわけで、私たちは祈る必要があります、「主イエスよ、私はあなたを顧慮します。また私はあなたのからだをも顧慮します。なぜなら、あなたはかしらであり、召会はからだであることを、私は知っているからです。私はからだなしにかしらを持つことはできません」。私たちはこう祈るべきです、「主イエスよ、今日あなたがもはや個人のキリストであるだけでなく、団体のキリスト、からだを伴うかしらでもあることを、私は知っています。あなたはからだ・キリストです。ですから、主イエスよ、私はあなたとあなたのからだを受け入れます。私はからだ・キリストを受け入れます。また私はこのキリストの中で歩くことを願います」。...団体のキリストの中で歩くことは、私たちのクリスチャン生活に大きな違いをもたらします。今日、大部分のクリスチャンはキリストの豊富を奪われています。大部分の人は霊的に貧しく、弱いです。なぜなら、彼らはキリストだけを顧慮し、召会を顧慮しないからです。...主の回復の中にいる私たちの多くが証しすることができるのは、私たちが召会の中へと入って、召会を顧慮し始めた日以来、私たちの霊的な生活に大きな違いがあったということです。私たちは豊かであるという内なる感覚を持っています。召会の中のあらゆる人は霊的に億万長者です。私たちはみな豊かです。

適用: 青少年・大学生、新人編

証 召会生活があることを感謝します。霊的書物を読んで追求していますが、自分1人で読むだけでは理解に欠けていることが多いです。しかし土曜日朝の預言準備集会や水曜日夜の集会で、余力兄弟の真理の適用についての交わりを聞いて、はっきり理解できることが多くあります。主日集会や祈りの集会などで、霊を活用して主を享受し、兄弟姉妹の交わりを聞いている時に、仕事などで悩んでいた事柄の解決策を得ることがあります。仕事を効率よく短時間で終わらせるための解決案も、集会の中で得られました。また人間関係において、自分の度量が狭く、人を受け入れていなかったこと、人に対して均衡がとれていなかったことを、集会の中で照らされ気付かされました。個人的に主と交わることは大切ですが、同時にからだの肢体を通して、特に霊の中で燃えている兄弟姉妹の交わりを通して気付かされ助けられることを感謝します。兄弟姉妹はキリストのからだの肢体であるので兄弟姉妹を通して主が語ってくださることに感謝します。